



全国大会・東北指導会出場隊

〔全国大会〕 ◇陸上の部

種 目 名	消防本部名	隊員 (チーム) 名
ロープブリッジ渡過	由 利 本 荘 市	佐 藤 雄 飛
はしご登はん	大 曲 仙 北 広 域	太 田 和 寿
ほふく救出	大 曲 仙 北 広 域	高 木 柊 輔 チーム
ロープ応用登はん	横 手 市	土 田 拓 実 チーム

〔東北指導会〕 ◇陸上の部

種 目 名	消防本部名	チ ャーム 名
引 揚 救 助	大 曲 仙 北 広 域	長 岐 政 伸 チーム
	秋 田 市	小野寺 亮 太 チーム
	男 鹿 地 区	安 田 幸 平 チーム
ロープブリッジ救出	大 曲 仙 北 広 域	齊 藤 佳 祐 チーム
	男 鹿 地 区	大 塚 大 輔 チーム
	横 手 市	栗 津 健 汰 チーム
障 害 突 破	秋 田 市	佐 藤 隆 介 チーム
	横 手 市	小田嶋 理 嗣 チーム

◇水上の部

種 目 名	消防本部名	隊員 (チーム) 名
複 合 検 索	能 代 山 本 広 域	伊 藤 雅 道
	秋 田 市	鎌 田 晃 遥
基 本 泳 法	大 館 市	畠 山 幹 大
	由 利 本 荘 市	大 友 峻 真
	秋 田 市	熊 谷 里 玖
人 命 救 助	五 城 目 町	菊 地 航 平 チーム
溺 者 救 助	能 代 山 本 広 域	茂 呂 成 倫 チーム
水 中 検 索	に か ほ 市	須 田 翔 馬 チーム
	能 代 山 本 広 域	金 平 健 太 チーム

第五一回消防救助技術秋田県大会
(秋田県消防長会主催) が六月三十日及び七月四日の両日開催され、出場隊員は日頃鍛えた救助技術を競いました。

消防救助技術秋田県大会
秋田県消防長会



題 字
初代会長 松野盛吉
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 高橋正尚
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

六月三十日秋田県立総合プール(秋田市向浜)で開催された「水上の部」には九消防本部から三七人が、七月四日秋田県消防学校で開催された「陸上の部」には、一三消防本部から二三人が出場しました。「陸上の部」開会式で、由利本荘市消防本部熊谷雄太消防士長が「我々

消防職員は人を助けることが使命であり、その瞬間のために日々心身を鍛え技術を磨き、本日、その成果を遺憾なく発揮し、指導者・同僚・家族への感謝の気持ちを胸に、戦い抜くことを誓います。」と宣誓しました。競技の結果、全国大会・東北指導会への出場隊は、別紙のとおり決定しました。東北指導会は七月に宮城県利府町(水上の部)と山形県鶴岡市(陸上の部)で、全国大会は八月に札幌市で開催されます。



77期 教育 第77期 初任教

実務研修を

終えて

秋田県消防学校



粕谷 一輝
(秋田市消防本部)

所属へ戻り、二回目の実務研修を実施した。

一回目は、秋田南消防署の装備品や車両の説明、放水訓練や三連梯子による訓練を実施したが、分からないことや失敗することが多かった。

今回は、成長した姿を見せられるように心がけて臨んだ。放水訓練の他に障害者施設で実施した避難訓練に同行させて頂いた。初めて避難訓練を見学し、消防士の自覚を再確認することができた。

夜は、予防課の方から予防業務についての説明を聞いたり、夕食の準備を手伝った。当直勤務ならではの経験もできたので、とても良かったと思う。

一日を通じて、前回より成長した部分を見せることができた。しかし、まだ現場では通用しない所がある。次回は、もっと成長し、現場で通用できるスキルアップした姿を見せられるよう努力していきたい。



小野 美咲
(北秋田市消防本部)

今回の実務研修は日勤を二日間行いました。

初日は通信指令室で電話対応を見学したり、実際に電話対応訓練もしました。電話に出た時の第一声やあいさつ、話し方などを教わりました。自分の生活にも生かせる場所があるので意識したいと思います。

ホースカーを使用した放水訓練では、破損があり正規の使用が出来ませんでした。私もいつか点検する立場になるので、今回の事を踏まえて行動しようと思いました。

二日目は母校の査察を行いました。消火器や消火栓の位置やホースに破損がないか、各報知器や資材庫の点検もしました。三年間過ごした校舎でしたが消火器の位置を把握していなかったため、普段から気を配りたいと思いました。また、資材庫には指定数量以上の軽油が貯蔵されており、どのような対策をすればいいかを見ることが出来ました。

今回の研修を通して当務の仕事はできませんでしたが、日勤だから出たこともありました。この研修を担当班になってからも生かして、頑張っていきたいと思えます。



館花 朔弥
(鹿角広域行政
組合消防本部)

実務研修を終えて私は、改めて消防職員として働くとはどういう事かを知れた。規律ある挨拶や声出し、仕事の丁寧さなど、私に足りないものがたくさん見えてきた。

署で一日研修をして、第一に思ったのが、挨拶が徹底されているという事だった。メリハリのある声で、当たり前のように歳に関係なく挨拶がされていて驚いた。私にはまだまだ足りない所だと思った。

次に感じたのは、出動時の冷静さと迅速さだった。救急の出動のみであったが、冷静に指令を聞き、迅速に着替えて現場に出動していく姿に感銘を受けた。二四時間常に出勤態勢を維持しているからこそ冷静さと迅速さだと思った。私も、こんな隊員になりたいと強く感じた。

これらから、実務研修を通して消防職員として大切な事を再確認できた。挨拶や丁寧な仕事などは、消防学校の問も常に意識してできる事だと思うので、これからより一層努力して、所属に戻れるようにしていきたいと思う。



加藤 大河
(能代山本広域市町
村圏組合消防本部)

今回は二回目の実務研修であり、実際の隔日勤務と同じスケジュールで行った。

八時三〇分に車両点検と朝の交代、その後、朝のミーティングを行い、二ツ井消防署で濃煙内を想定した検索訓練を見学した。出動指令の直後に、モニターで現場の位置を確認し、隊長による隊員の役割分担が迅速になされていた。また、呼吸器を装着するスピードも速く、検索も隊員間での連携が取れていた。

午後から、防火衣着装訓練、放水訓練、ホース搬送要領の訓練をした。防火衣着装は遅れると消火活動の開始も遅くなってしまうので、経験を重ねて早くできるようにする。放水訓練では、放水する時の姿勢を指摘された。火災現場で二、三時間と放水するのに耐えるためにも、正しい姿勢で放水できるように訓練を重ねていきたい。

今回の実務研修を通して、訓練に対するモチベーションが向上した。卒業後に即戦力となるためにも、今後も訓練を大切に、意欲的に取り組んでいきたい。



菅原 直綺
(大曲仙北広域市町
村圏組合消防本部)

実務研修では、多くのことを学び、知識や技術の向上、消防士としての一日の生活を知ることができた。

午前中は、無線通話試験の要領、三連梯子操作訓練、結索訓練、救助訓練の見学を行った。三連梯子や結索訓練では、細かい部分を教えてもらい、操作の仕方を再確認することができた。

救助訓練の見学では、高いレベルの救助を間近で見ることができ、とても勉強になった。今回見たことを目標として、残りの訓練に励んでいきたい。

午後は、ホースの延長訓練、救急救命訓練を行った。

救急救命訓練では、胸骨圧迫や傷病者の搬送、ボディメカニクスについて学ぶことができた。消防士にとって身体が資本となるので、ケガをしない体の使い方を知ることが、今後の自分のためにも知っておかなければならないと感じた。

人々の命を守るために、まず自分の命を守る。そのために、日々の訓練を行い、知識をつけ、時間を守るなどの基本的なことが大切だということを確認することができた。



加藤 大澄
(大曲仙北広域市町
村圏組合消防本部)

実務研修を終えて、私は、主に二つのことを学んだ。一つ目は、時間管理の重要性、二つ目は、消防士としての自覚を持つことだ。

私は今日、集合時間ぎりぎりになってしまった。朝の道は混むかもしれないと前もって考え、逆算して行動すれば防げることである。消防はチームで行動するので、一人が欠けるとチームに穴ができてしまう。この経験を無駄にすることなく、消防学校でも時間管理を徹底していく。

また、実務研修を通して先輩方との差をすごく感じた。実際に出動するところを拝見して、現場経験の無い私は消防士としての自覚がまだまだ足りないことを痛感した。学校生活も残り三ヶ月を切ったので、今更以上にも真剣に取り組みたい。

今回の研修を経て、時間管理の重要性を学び、消防士としての自覚が足りないことを痛感した。所属に戻ってきた時に、一人前の消防士として、現場で活躍できるように、今後の学校生活をより一層充実したものにしていきたい。



高橋 平
(湯沢雄勝広域市町
村圏組合消防本部)

今回、二度目の実務研修を終えて思ったことは、「災害はいつ、どこで起こってもおかしくはない」ということです。もちろん一年間、消防署で勤務していて、そのことは身にしみて分かってはいました。ですが今回、改めて考えさせられる出来事がありました。

それは、訓練中の事でした。消防署の前でホース取扱訓練をしていた時、道路の方から大きな音がして、見てみると車両二台の接触事故でした。まさか見通しの良い十三号線上で起こるとは思わなかったので驚きました。

また、夜間に行った通信勤務の見学で仕事の説明を受けていた時、通報があり指令センター内の空気が変わったことです。先程まで、楽しく説明を受けていた所に一報が入り、一気に現場の最前線になり、出動をかけた災害内容を聞いている所を見ることができました。

以上二つを体験したことで、突然起こる災害の恐怖を改めて感じる事ができ、常に出勤体制を取れるようにすることの大切さを知ることができました。



消防団員意見発表

第七四回秋田県消防大会が記録的な大雨の影響により中止になったため、第一七回消防団員意見発表会で発表予定だった意見の概要を紹介し
ます。

男鹿潟上南秋支部

「我が分団の現在過去未来」

潟上市消防団

副分団長 菅原 正貴

歴史ある秋田県消防大会の席で見発表できることをありがたく光栄に思います。私達第一分団は旧昭和町の野村地区に所属し【野村衆】と聞けば、あのじゃくけしの悪だれ者の部落だねが、と思いがたる節の方も本日ここにおられるかと思いません。若干名その名残を残しながらも野村衆の一員として消防団活動に日々励んでおります。

活動の拠点、消防小屋には歴代団長の写真と、古いものでは昭和二十九年の分団員二十四名の集合写真、数々の賞状と盾が目いっぱい飾られ、伝統と先輩方の功績を感じます。

また、当時の写真からは誰一人として素直そうな顔が見当たらず、やはり、【じゃくけし】と言われる所

以の原点はここにあるのだな、とつくづく思います。

空手チョップの力道山が初めてテレビ放送されたのが丁度昭和二十九年。あの顔は多少その時代の影響があるのかも知れませんが。ちなみに初代団長は私の父の祖父にあたり、消防イベント後の反省会で仲間と楽しく酒を飲んだ後は気分も心地よいか大声で歌って帰る場面も多く、その声がいぶ先から聞こえ、家内には緊張感さえ漂っていたと、今でも従兄弟が苦笑いで教えてくれることがあります。

私が入団してから三十年が経ちました。正直なところ、最初は当時の団長に消防半纏を渡され、半ば強引に消防団に入れられたのを記憶しています。しかし年齢を重ねていくにつれ使命感や責任感が少しずつ芽生え、この活動が人として私を成長させてくれているのだと感じてきました。そして、それを支えてくれる家族の存在、職場の理解にも深く感謝しなければなりません。

急激な時代の変化、社会問題となっている少子高齢化の中で、次につながる分団員の確保という点で、我が分団も非常に苦悩している現状にあります。が、地域の消防防災活動がそこに暮らす人々のため、自分自身のためにもなるのだという事、消

防小屋に行けば何でも言い合えるいつもの仲間に会える、何なら、仕事での不満や家庭でのストレスも忘れられる。我々の消防活動を通じ、地元住民の理解度を高めつつ、若い世代には地元メンバーとの良い交流の場として捉え、気の合う新しい仲間を増やしていければと思います。

昨今、地球温暖化による未曾有の大災害、被害報道を目や耳にしない日が無いと言っても決して過言ではありません。【気の毒だねが】

【やー仕方ねがー】他人事とは思わずに、自分の家族、地域住民の生命と財産を守るのは自分たち。今以上に肝に銘じて、いつもの仲間と使命感を強く持つてこの先も続けていきたいと思えます。

由利本荘にかほ支部

「消防団に入団して」

由利本荘市消防団

部長 佐藤 正幸

私が所属する由利分団第五部は、十の集落をして大自然豊かな由利高原を管轄地域とし総勢二十七名の団員で構成されています。

私が消防団に入団したきっかけは、近隣集落において退団者はいるが、入団者がおらず代わりに入団し欲しいとの事でした。当時の私

は、消防団イコール訓練大会や火災現場にしか思っていませんでしたが、いざ入団してみると様々な活動があり、少し考えが甘かったなと思いました。

平成十一年入団以来、火災や捜索など様々な現場に出動しましたが、今でも忘れられないのが平成二十五年十一月二十一日十五時二十分頃、由利本荘市矢島地区の災害復旧工事現場で発生した土砂災害での消防団活動です。

災害概要は、市道の復旧工事現場で法面と道路の一部が崩れ、作業していた土木作業員五名が死亡し、一名が負傷したものです。被災者は二十代から六十代の男性五名、女性一名の計六名です。

自衛隊、消防隊、警察、消防団、市役所職員他あらゆる団体での捜索は、はつきりとしなない現場状況、未だに動きのある土砂に加え、気温は4度前後の悪天候や寒い中で、とても過酷なものでした。

消防団の捜索活動は、自衛隊、消防隊、警察が行うゾンデ棒で土砂内を捜索、これを繰り返して、反応が出たら手掘りでの土砂搬送の協力、及び手掘りで生じた土囊の搬送と後方支援を一隊二十名から三十名で、一回あたりの作業時間は三十分から四十分、十一隊の内三隊ずつ順繰り現

場投入で行いました。

結果は残念となつてしまいました
が、ご家族の元へとお返しできたこ
とが、せめてもの救いでした。

捜索活動に出動するにあたり、朝
六時半作業開始のため、五時には起
床し、ポンプ格納庫待ち合わせの後
に五時半出発、日暮れに撤収し帰宅
する頃には辺りは真つ暗でした。

朝のおにぎりや帰宅後の夕食、人
を助けるためとは言うものの、危険
な現場と知りつつ文句の一つも言わ
ず送り出してくれた家族、大変不安
なことだったと思います。改めて家
族に感謝です。

後日談ではありますが、捜索活動
に参集した消防団員は、延べ八百六
十名と聞いております。いざ、有事
が発生すれば、地域を越えて参集す
る消防団の団結力の凄さに、我なが
ら驚かされました。

コロナ禍で活動自粛であつたり、
異常気象での豪雨災害など、災害は
いつ何時発生するかわかりません。

消防団員として地域の安心安全を
守るところで、何ができるか
わかりませんが、訓練や啓蒙活動な
ど、諸先輩方々から培った知識、活
動を通じて自分が経験したことを活
かし、消防団に入団して知り合えた
人との繋がりを大切に、今後の消
防活動に邁進してまいりたいと思
います。

秋田市支部

「将来のポンプ操法の
あり方について」

秋田市消防団
班 長 土田 知礼

私は、二月に東京で開催された第
二十二回消防団幹部候補中央研修会
に参加してきました。

北海道から沖縄まで全国から研修
生が集まつたなか、私が所属した七
班は、北海道・新潟・栃木・千葉・
滋賀・兵庫・徳島・福岡・鹿児島・
秋田十道県の分団長・部長・班長・
団員計十名で、将来のポンプ操法の
あり方について課題検討を行いました。

研修で講師の方が仰っていたので
すが、操法大会はやらなくても良い
のではとの考えに対し、有事の際に
備え、ポンプ車・小型ポンプを当た
り前に扱うため必要の練習とお話
がありました。何も起こらないこ
とが一番良いですが、有事の際に
しつかり活動出来るように、気持ち
を改めて操法の練習をしていかな
ければならないと感じました。

最後になりますが、今後も消防団
活動を維持継続して行くにあたり、
研修で学んだことを考えながら、よ
りよい消防団活動ができるように、
出来ることを全力で取り組んで行
きたいと思えます。

令和五年度

東北地区消防連絡協議会

令和五年度東北地区消防連絡協
議会は、七月十九日(水)に、東北地
区七県(新潟県を含む)の消防協会
から、会長、副会長、事務局職員ら
が出席して、ホテルメトロポリタン
秋田で開催される予定でしたが、大
雨の影響により中止されました。

このため、協議する予定だった議
題のうち、要望事項三件を日本消防
協会に提出することが書面です承さ
れました。

また、来年度は青森県で開催され
ることが決まりました。

要望事項

- ①全国消防団応援の店利用者支援
について(提案…青森県)
- ②新日本消防会館の活用について
(提案…青森県)
- ③消防団員の惨事ストレス対策の充
実について(提案…秋田県)

7班 消防団活動の問題点と解決策について

＜テーマ＞
『将来のポンプ操法のあり方について』




(現状の問題点の整理)

- ・サラリーマン団員が増える中、負担が重く選手のみが少くない
- ・「消火技術の向上」<「勝ち負け」>になっている?
- ・消火技術向上のためのスキルアップではなく「ポンプ操法のスキルアップ」となっている?
- ・地域毎に消防団に求められる役割が異なる為、ポンプ操法の必要科目がないところもある
(火災時は警備、交通誘導が主で、消火作業が皆無であるetc)
- ・限られた資金をポンプ操法に多く使うことが無駄ではないか?

↓ 構成団員の変化により 転換期に入っている?

(解決策)

- ・ポンプ操法に出る出ない、やるやらないを「選択制」にする
⇒ 団、分団、班ごとに「選択権」を与える
- ⇒ 総練習するところは引継ぎと一緒、やることも可能
(団、団員の「団結力」もモチベーション向上にも役立つ可能性がある)
- ・締め戸ところは、それぞれポンプ操法に充てた資金や時間と若手のスキルアップや団員の処遇改善などに使う
- ・火災現場でより役立つ技術や知識を効果的に習得する
⇒ より実践に近い形で訓練を行う
⇒ 自分自身に足りていないところを自分自身で考え、自分自身でやり方で活動する


令和5年度消防団員数の概要

令和5年4月1日現在の消防団員数(速報値)の概要は次のとおりです。(秋田県総合防災課調査)

1. 消防団員数は14,546人

消防団員数は減少が拡大する傾向にあり、前年同期比585人減の14,546人となりました。

条例定数充足率は83.4%、被雇用者率(サラリーマン化率)は77.6%となっています。(単位:人、%)

	H30. 4. 1	H31. 4. 1	R 2. 4. 1	R 3. 4. 1	R 4. 4. 1	R 5. 4. 1
消防団員数	16,653	16,275	15,894	15,473	15,131	14,546
前年同期比増減数	△ 247	△ 378	△ 381	△ 421	△ 342	△ 585
条例定数充足率	88.3	87.7	85.9	84.8	84.5	83.4

2. 女性消防団員は1人増の468人

女性消防団員は年々増加してきましたが、今年度は前年同期比1人増の468人となりました。

(単位:人、团)

	H30. 4. 1	H31. 4. 1	R 2. 4. 1	R 3. 4. 1	R 4. 4. 1	R 5. 4. 1
女性消防団員数	384	390	415	429	467	468
前年同期比増減数	22	6	25	14	38	1
女性団員採用消防団数	25	19	21	20	21	21

3. 機能別団員は20消防団、1,315人

機能別団員制度が県内に導入されたのは平成19年度からですが、年々増加しており、前年同期比37人増の1,315人となりました。

(単位:人、团)

	H30. 4. 1	H31. 4. 1	R 2. 4. 1	R 3. 4. 1	R 4. 4. 1	R 5. 4. 1
機能別団員数	716	817	1,045	1,163	1,278	1,315
前年同期比増減数	122	101	228	118	115	37
機能別団員制度導入消防団数	12	14	18	19	20	20



消防団員募集

地域の安心と安全を守るために、
あなたにもできることがあります。



消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。

消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

消防団員の減少で、地域防災力の低下が懸念

本県の消防団員数は、昭和31年には3万6千人が在籍していましたが、年々減少し続け、令和5年4月1日現在では、約4割の1万4,546人と

なりました。

地域の消防防災力の低下が懸念されています。

多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。

一人でも多くの方に、消防団活動に参加いただけることを期待しています。

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋田県代理店

株式会社 高義商会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕カギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | 消防設備保守点検
トーハツポンプ | キンパイホース
各種消防機械器具 | 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

令和5年度消防団員数(令和5年4月1日現在)

(単位:人、%)

地域名	消防団名	条例 定数	実 団 員 数				定 数 充足率	女 性 団員率	前年同期比較	
			総数	男性	女性	うち 機能別 団員数			団員数	増減数
鹿 角	鹿角市	892	749	716	33	70	84.0	4.4	761	△ 12
	小坂町	150	114	110	4	0	76.0	3.5	116	△ 2
	地域計	1,042	863	826	37	70	82.8	4.3	877	△ 14
北秋田	大館市	980	853	781	72	41	87.0	8.4	905	△ 52
	北秋田市	670	576	556	20	32	86.0	3.5	608	△ 32
	上小阿仁村	100	71	71	0	2	71.0	0.0	78	△ 7
	地域計	1,750	1,500	1,408	92	75	85.7	6.1	1,591	△ 91
山 本	能代市	745	629	570	59	142	84.4	9.4	653	△ 24
	藤里町	125	99	99	0	0	79.2	0.0	103	△ 4
	三種町	507	405	397	8	73	79.9	2.0	409	△ 4
	八峰町	330	244	238	6	33	73.9	2.5	250	△ 6
	地域計	1,707	1,377	1,304	73	248	80.7	5.3	1,415	△ 38
南秋田	男鹿市	820	728	709	19	113	88.8	2.6	767	△ 39
	潟上市	508	418	403	15	12	82.3	3.6	434	△ 16
	五城目町	205	155	148	7	41	75.6	4.5	167	△ 12
	八郎潟町	75	61	61	0	0	81.3	0.0	64	△ 3
	井川町	145	108	104	4	5	74.5	3.7	110	△ 2
	大潟村	67	50	50	0	13	74.6	0.0	56	△ 6
	地域計	1,820	1,520	1,475	45	184	83.5	3.0	1,598	△ 78
秋 田	秋田市	2,100	1,564	1,528	36	120	74.5	2.3	1,609	△ 45
由 利	由利本荘市	1,524	1,425	1,405	20	205	93.5	1.4	1,460	△ 35
	にかほ市	460	430	418	12	57	93.5	2.8	446	△ 16
	地域計	1,984	1,855	1,823	32	262	93.5	1.7	1,906	△ 51
仙 北	大仙市	1,375	1,070	1,006	64	80	77.8	6.0	1,085	△ 15
	仙北市	630	461	444	17	15	73.2	3.7	492	△ 31
	美郷町	405	313	312	1	26	77.3	0.3	331	△ 18
	地域計	2,410	1,844	1,762	82	121	76.5	4.4	1,908	△ 64
横 手	横手市	2,400	2,073	2,044	29	175	86.4	1.4	2,190	△ 117
雄 勝	湯沢市	1,555	1,417	1,389	28	60	91.1	2.0	1,485	△ 68
	羽後町	467	379	375	4	0	81.2	1.1	393	△ 14
	東成瀬村	200	154	144	10	0	77.0	6.5	159	△ 5
	地域計	2,222	1,950	1,908	42	60	87.8	2.2	2,037	△ 87
計	25消防団	17,435	14,546	14,078	468	1,315	83.4	3.2	15,131	△ 585

支部情報アラカルト

訓練礼式講習会

を開催しました

六月一八日(日)、能代消防署において訓練礼式講習会を開催しました。この講習会は、日々の消防活動はもちろんのこと、七月に開催される市や郡市操法大会においても、厳正な規律の保持と迅速的確で秩序ある行動ができるよう、毎年六月期に行っています。

当日は六一名の団員が参加し、能代消防署の指導のもと、小隊に分か



れてお互いに向き合い、「基本の姿勢」や「まわれ右」といった各個訓練などの基本動作をはじめ、表彰受領要領についての指導を受け、最後に通常点検を実施しました。参加者は皆、真剣な表情で号令に対して瞬時に反応し、基本の姿勢や敬礼を繰り返し行い、基本動作や部隊行動の習熟に努めました。

今回は、消防団再編後初の講習会でしたが、新たに同僚となった団員同士で細かい部分まで指導し合う光景も見られ、消防人として意識の高さを感じました。



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	令和 5 年		令和 4 年			同期比較	
	7 月	累計	7 月	累計	年計	7 月	累計
建 物	11	111	10	102	165	1	9
林 野	0	27	0	27	27	0	0
車 輛	1	14	2	20	33	- 1	- 6
その他	0	48	1	75	89	- 1	-27
合 計	12	200	13	224	314	- 1	-24
死者数	0	9	3	19	26	- 3	-10
負傷者数	0	37	0	29	36	0	8



また、受講は経験年数や階級などの制限は一切設けておらず、希望者は全員受講することができ、入団三年目の団員から勤続三十年を超える分団長までが一堂に会して、熱心で丁寧な指導を受けたことで、より一層団員同士の団結が強固なものになったと思います。

そして、最後に渡邊団長が「今日学んだことを各分団へ持ち帰り、他の団員へ伝達することで、より有意義な講習会になる」と述べられました。(情報提供〓能代市山本郡支部)

モリタ消防ポンプ
桜ホース・ソフト吸管
各種消火器

シバウラポンプ
消防被服一式
消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

〒010-0962 秋田市八橋大畑一丁目1番32号
TEL 018(863)1551
FAX 018(853)6311